

建設経済環境委員会視察報告書

- 【視 察 日】 令和5年1月23日（月）～1月24日（火）
【視察委員】 多田 晃委員長、増田 克彦副委員長、深津 寧子委員
鈴木 岳幸委員、山本 信行委員、小林 和彦委員
【視 察 先】 （1）埼玉県三郷市 （2）栃木県矢板市

調査事項 令和5年1月23日（月）埼玉県三郷市 インクルーシブ公園の整備について

①市の概要

【人口（令和4年2月1日現在）：142,350人】【面積：30.22km²】

秋葉原から最速20分のつくばエクスプレス、JR武蔵野線の三郷駅、大型商業施設が集まる新三郷駅など、首都圏からのアクセスが便利。車では東京外環道、常磐道、首都高などがあり、発展を続ける。

②取り組みの経緯・内容

令和3年4月「三郷市緑の基本計画」を策定し、「魅力ある公園づくり」を重点施策の一つに位置づけ、特色のある公園づくり、公園における新たなサービスの提供などを目標に掲げたことから、誰もが遊べるインクルーシブ公園の整備を進めている（県内初）

- ・障がい者の移動等に配慮した結果、駐車場があること、平坦な地形であること、市の中央部に位置することなどから、既存のインター南中央公園の一角（約1,500m²）をインクルーシブ公園として改修している。（R5.3月完成予定）
- ・複合遊具、シーソー、ブランコ、チューンドラム、砂場等で構成され、車いすを始め、あらゆる障がい者が安全に遊べる遊具を選定している。
- ・総整備費4,500万円で、うち1,900万円は県補助金を活用。

③課題

- ・車での来園を想定しており、障がい者用の駐車場を4台、その他20台の駐車場を確保しているが、人気の公園となれば駐車場が手狭になることが懸念される。
- ・近隣に住宅が少なく、地域との繋がりがやや弱いため、遊具等のメンテナンスの方法を考えていく必要がある。

③本市に反映できると思われる点・意見

- ・本市の都市公園にはほとんど駐車場が無いため、障がい者団体等が駐車できるスペースの確保を検討すべき。
- ・有識者や関係者を交え「インクルーシブ公園懇談会」を複数回開催されており、整備計画を進める上で重要であるとともに、行政/利用者/地域のコンセンサスのもとで進捗するという意味でも大いに有意義であると思う。手法として参考にしたい。
- ・同じ区画内にインクルーシブ遊具を設置することについて、ソフト面のトラブルを懸念されていたが、本市は小中学校に支援学級もあることから、子ども達や保護者の理解はあるのではないか。関係機関を交えて検討が必要だと感じた。



調査事項 令和5年1月24日（火） 栃木県矢板市 森林環境譲与税活用の取組について

①市の概要と課題

【人口（令和5年1月1日現在）：30,946人】【面積：17,046ha ※森林面積9,731ha】

東京から約140kmの距離にあり、東北自動車、JR宇都宮線、東北新幹線が交差する交通拠点。森林資源が豊富で、北部は、日光国立公園の一部である高原山で、各所に鉱泉が湧出。

②取り組みの経緯・内容

森林環境譲与税（令和3年度譲与額：26,676千円）を活用して、森林整備に必要な人材の育成・担い手の確保に力を入れているほか、森林経営管理制度に基づく森林整備や、森林資源の循環利用に向けた取組など、多様な取組を展開している。

◎林業従事者支援事業

	R2実績	R3実績	R4見込
UIJターン林業従事者の賃貸住宅家賃等支援事業	2名	2名	2名
林業研修及び資格取得等促進支援事業	延べ18人 高校生10人	延べ14人 高校生17人	延べ27人 高校生17人
林業従事者安全衛生対策支援事業	4事業所	3事業所	3事業所
林業ICT及び未来技術導入支援事業(令和4年度新規)	—	—	1事業者

◎地域林政アドバイザー

- ・林業普及員資格を持つ県林務職OBを会計任用職員として採用
効果：森林経営管理体制が促進

◎林道・路網整備

- ・林業専門道整備に補助金交付・市管理林道の維持補修
効果：素材生産の増産に寄与森林整備の加速化

◎公共施設木質化と普及啓発

- ・「矢板こども未来館」整備にあたり施設への木材活用と木製遊具設置

効果：木の良さの普及啓発に寄与。令和5年度は「文化スポーツ複合施設」へ活用予定。



③課題

- ・人材の獲得、育成は大きな課題で、儲かる仕事でなければ、次世代の人材が入ってこない。森林環境譲与税を利用して、林業・木材産業が、安定的に経営が成り立つようにしていく必要がある。
- ・今後は、林業ICT導入及び労働力の確保、主伐面積の拡大と主伐再生林の促進が主な課題である。

④本市に反映できると思われる点・意見

- ・矢板市と藤枝市では、林業に対する経緯や産業の違い、山林の様子など、異なる事が多いが、森林との関わりが薄れ荒廃が進み、土砂災害の危険性など森林の整備は本市にとっても喫緊の課題と感じる。まずは、森林所有者の把握や不在森林所有者へのアプローチを早期に完了させるとともに、所有者や森林組合など関係者と市と利活用を含めた協議の場を設ける事が重要である。
- ・木材の地産地消も必要だが、流通経路の確保にも、森林環境譲与税の活用を検討してはどうか。
- ・現状の藤枝市内の担い手不足は深刻であり、すぐに経営が成り立つようにすることは難しく、当面は補助や助成で人員を確保することも必要だと感じた。